

自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 幼児期の育ちと学びを踏まえ、他教科等との関連を意識し、体験活動と表現活動が相互に繰り返されるように単元を構想する。
- ② 「*1四つのプロセス」を基本に単元の学習を展開し、児童が体験や活動に没頭できる時間や学習活動を設定する。
- ③ 見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を設定し、児童が具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにする。
- ④ 活動や体験を通して気付いたことを、言葉・絵・動作・劇化などの多様な方法で表現して伝え合ったり、振り返って捉え直したりする学習活動を設定する。
- ⑤ 児童の発言やしぐさを「*2四つの目」を重視して丁寧に見取り、働き掛けや言葉掛けを工夫し、児童の気付きの質が高まるようにする。
- ⑥ ねらいを達成した具体的な児童の姿を想定して計画的に見取ること、児童の学習状況を把握し、学習と指導の改善を図る。

*1 四つのプロセス：「思いや願いをもつ」「活動や体験をする」「感じる・考える」「表現する・行為する（伝え合う・振り返る）」の生活科の学習過程

*2 四つの目：「温かい目」「広い目」「長い目」「基本の目」の児童の姿を見取る基本姿勢

身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、気付きの質を高める学習の例

小学校第1学年 単元名「もうすぐ2年生」 [内容(8)生活や出来事の伝え合い (9)自分の成長]

◇単元の目標（一部）

年長児と交流したり、自分の成長を振り返ったりする活動や気付きを伝え合う活動を通して、自分の成長や支えてくれた人について考えたり、伝えたいことや伝え方を選んだりして、感謝の気持ちと今後の成長への願いをもって意欲的に生活しようとする。

◇単元の評価規準（一部） [思考・判断・表現] (行動観察、発言や振り返りの記述分析)

- ・1年前の自分と現在の自分を比べながら、できるようになったことを探している。 [内容(9)]
- ・誰に伝えるかを思い描きながら、伝えたいことや伝え方を選んでいる。 [内容(8)]

児童の実態から、学習に関連性や連続性、発展性が生まれ、児童の思いや願いの一層の高まりが期待できる場合には、複数の内容を組み合わせることで、主体的に学びに向かう姿を引き出すようにします。 ①

学習活動	1～8	9～16
	1年前の自分を思い起こして、年長児との交流会の計画を立てて開催し、気付いたことを伝え合う。	入学してからの1年間の出来事や自分の成長を振り返り、気付いたことや伝えたいこと、伝え方を考え、まとめたものを基に伝え合う。

気付きの質の高まり

自分の成長を伝え合う

- 伝え合う 振り返る
- 感じる 考える
- 活動や体験をする
- 思いや願いをもつ

1年間を振り返ろう

- 伝え合う 振り返る
- 感じる 考える
- 活動や体験をする
- 思いや願いをもつ

家の人、最初は学校の準備を手伝っていたけれど、今は一人でできるようになったと話していました。

国語で勉強した「お手紙」を書いて伝えるとよいと思います。

友達が鉄棒が上手にできるコツを教えてください、うれしかったです。だから「ありがとう」を伝えたいです。

他の写真も見て、どんなことがあったか思い出そうかな。

家の人に、できるようになったことを聞いてみようかな。

先生が知らないみんなの成長が、学校以外の生活の中にもありそうですね。みんなで探してみましようか。

もっと、できるようになったことを探してみたいです。

入学してからできるようになったことや成長したことがたくさんありそうですね。

鉄棒が上手にできなくて、困ったときがありました。

ひらがなが上手に書けるようになりました。

写真や作品を見て、みんなで1年間を振り返ってみましよう。

私たちも、年長さんのとき同じだったのかな。

年長さんたちが喜んでくれて、うれしかったな。

入学してからできるようになったことを探してみたいな。

生活科と各教科等の関連を図った単元を構想・展開し、指導に生かすために、単元配列表の作成と活用が効果的です。 ①

相手のことを想像し、伝える内容や方法を自分で決めることで、身近な人々と関わるよさや楽しさを実感できるようにすることが大切です。 ④

児童の発言やしぐさを丁寧に見取り、共感や問い掛け、価値付け等の支援を工夫することで、児童の気付きの質が高まるようにします。 ⑤

多様な人々との触れ合いや交流は、児童が新たな気付きを得て考えたり、自分の気付きを捉え直したりすることにつながります。 ①

架け橋期のカリキュラム スタートカリキュラム 単元配列表

幼児教育の考え方や幼児期の経験を生かす

育ちをつなぐ～市町村と幼保小との協働による円滑な接続の推進～ p 3

